



三昭運輸分会が不当労働行為の救済申立 12月20日・県本部委員長等と労働委員会へ

神奈川県南支部三昭運輸分会は、不誠実団交を改める意思がまったく感じられない(株)三昭運輸の不当労働行為をただすため12月20日に神奈川県労働委員会に救済申し立てをおこないました。

会社側が2013年から社会保険労務士を団体交渉メンバーに加えて以降の団体交渉は社会保険労務士の主導で進められるようになって、分会の要求を否定する姿勢に終始するのみならず、やがては団体交渉そのものを「留保する」といって事実上拒否するまでに至りました。



不当労働行為救済申立書を県労委に手渡す清野分会長

組合側は、会社の不誠実な団体交渉を改めるよう求めて粘り強く説得を続けましたが改める姿勢が見えないため、今年3月16日に「団体交渉ルールの確立」を求めて県労働委員会でのあっせんを試みましたが、

このあっせん申請に対して県労委では「県労委立会による団交を行なってはどうか」などの提起も含め労使関係の正常化に向けて和解案を提示、使用者委員からも会社側の説得を丁寧に繰り返したと報告がありました。しかし、会社は県労委の提案を拒否「例え不当労働行為で訴えられても県労委のあっせん案で和解することはできない」との態度を変えなかったとのことであっせんは不調に終わりました。しかし、その際に公益委員は、組合側と会社側を同席させたなかで「あっせんが不調に終わったことや組合側が会社側を不当労働行為で訴えることがあっても、それを理由に団体交渉は拒否できません。それは不当労働行為です。」と厳重注意が申渡されました。

今回の救済申立は以上のような経過を踏まえて行ったものです。県労委での本格的なたたかいは年明けになりますが、県本部の全支部と分会の支援をお願いします。

関東エース物流の第2回交渉は1月15日

11月20日に結成通知を行った神奈川県南支部合同分会ユニオンつばさ関東エース物流班は12月13日に第1回団体交渉を行い、組合側は県本部委員長、支部委員長・副委員長・書記長など7名が出席、会社側は総務部長、総務部マネージャーに加えて弁護士が出席しました。この日の交渉では、健全な労使関係の確立などを求める建交労の基本要求をはじめ当該職場の賃金決定などを公正・公平に行うことなどを求める趣旨説明などを行いました。次回の団体交渉は年明けの1月15日に行います。

2018年旗開き

建交労神奈川県本部

建交労神奈川県本部は、以下のとおり「2018年旗開き」を開催します。

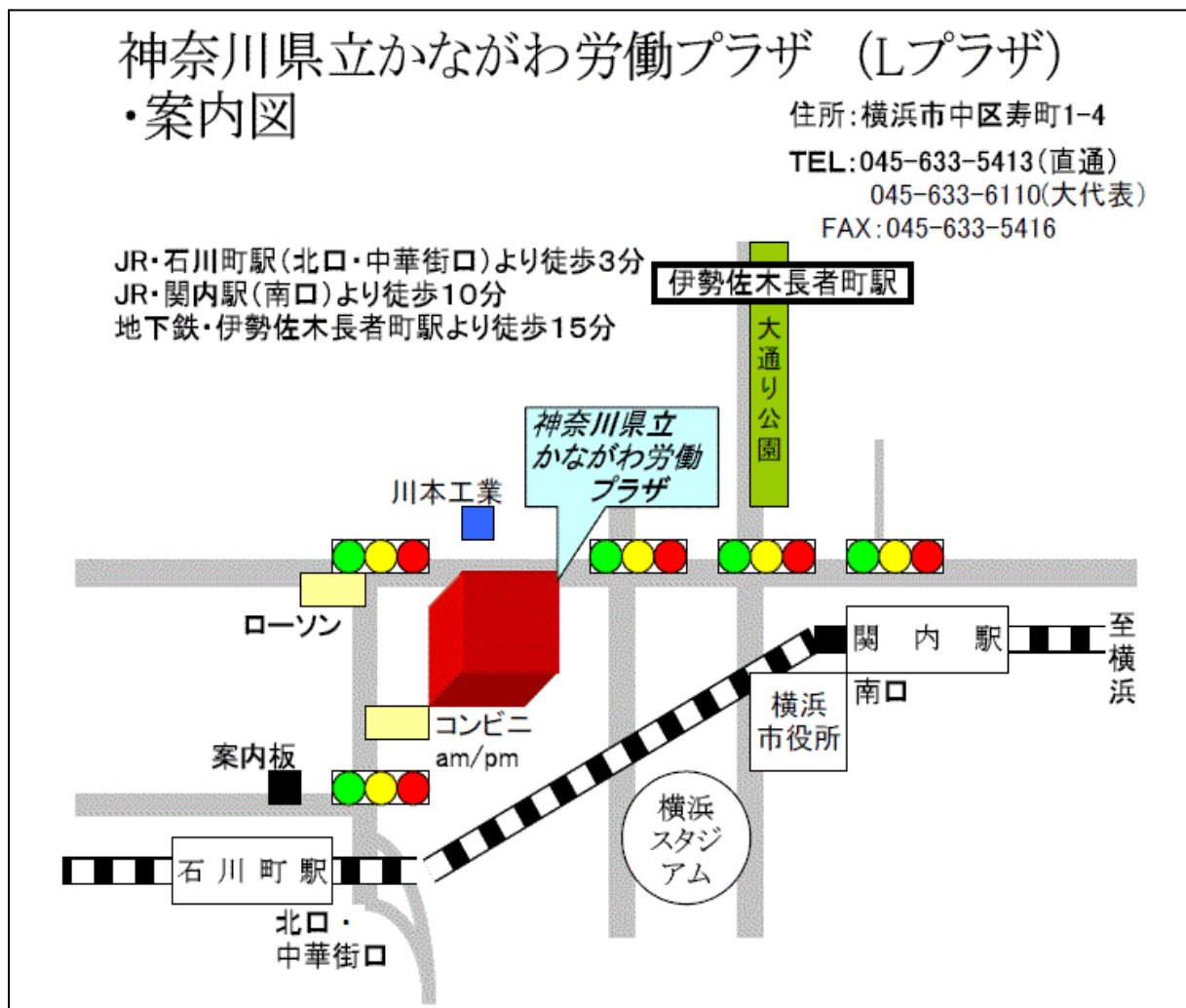
新しい年を迎えて全支部・全分会での要求実現、国民的課題での闘争強化、強大な組織建設など、たたかいへの決意を固め合う集いです。各分会からは、一人でも多くのなかまが参加するよう取り組みを強めましょう。

日時：2018年1月7日(日) 午前 11:00～

場所：かながわ労働プラザ9F レストラン「味彩」

(JR石川町駅下車徒歩5分)

会費：大人 2000円 (子供 無料)





被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、 核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、 すべての国に求めます。



人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器、化学兵器について、使用、開発、生産、保有を条約、議定書などで禁じて来ましたが、それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かす、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月

よびかけ被爆者代表：坪井直、谷口稜暉、岩佐幹三（以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員）、田中熙巳（日本被団協・事務局長）、郭貴勲（韓国原爆被害者協会・名誉会長）、向井司（北米原爆被害者の会・会長）、森田隆（ブラジル被爆者平和協会・会長）、サーロー・セツコ（カナダ在住）、山下泰昭（メキシコ在住）

私は被爆者の訴えに賛同して署名します

名前	住所	募金

ご記入いただいたお名前や住所など個人情報は、この要請目的以外には使用しません。みなさんの署名は、毎年の国連総会に提出いたします。

【取扱団体】

原水爆禁止日本協議会

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4 ☎03-5842-6031